※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和８年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	（学）競技スポーツ A① (ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ)	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・バスケットボールに興味関心を持とう。
・バスケットボールの基礎的なプレーを習得し、技術を向上させよう。
・バスケットボールを通して、コミュニケーション能力を育もう。
・ルールを理解し、安全に留意し、取り組めるようにしよう。

２　学習の到達目標

（１）バスケットボールに関する基礎知識を応用して、より高度な技術や戦術を理解し、目的に応じた技能を発揮する力を身に付けている。

（２）自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。

（３）バスケットボールに関する専門的な知識・技能の理解を深めるだけではなく、運動の楽しさや喜びを深く味わうことのできるような実践を計画的かつ協働的に取り組んでいる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	パス、ドリブル、シュートなどの安定したボール操作や空間に走り込む動作など、ゴール前での攻防を展開することができる。 技術の名称や行い方を理解している。	自己やチームの課題を発見し、その課題に応じた練習方法を選択したり、考えたりしているとともに、それらを他者に伝えている。 相手の守備や攻撃に対して有効なプレーを選択している。	自己や仲間の健康・安全に留意し、生涯にわたって継続してバスケットボールに親しむ態度を養い、健康な社会づくりに向けて主体的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
4月～9月	基本動作の習得	・パス ・ドリブル ・シュート	a:パス、ドリブル、シュートの技術（ファンダメンタル）を身に付けている。 b:コミュニケーションを取りながら練習を行い、気付いたことを他者に伝えている。 c:バスケットボールの技術力を向上させるだけではなく、自己や仲間の健康・安全に留意し、主体的に取り組もうとしている。	・観察 ・スキルテスト	・観察 ・パフォーマンス課題	・観察 ・ワークシート
	対人練習	・2対1、3対2 ・1対1、2対2、3対3	a:練習方法への理解を深め、パス、ドリブル、シュートを正しく選択し、得点する力を身につけている。 b:ボールを持たないときに、得点を狙って空いているスペースに走り込むことができる。 相手の守備や攻撃に対して有効なプレーを選択している。 c:バスケットボールの技術力を向上させるだけではなく、グループで安全に留意して、健康な社会づくりに向けて主体的に取り組もうとしている。	・観察 ・スキルテスト	・観察 ・パフォーマンス課題	・観察 ・ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度